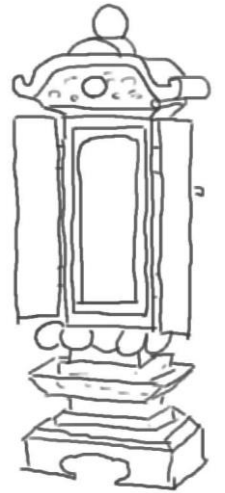


# 位牌



「位牌」についてよく質問されることがあります。宗派、

地域によって位牌についての考え方が違いますが、真宗ではどうなのか。「位牌」を浄土真宗の辞典で引いてみました。

浄土真宗では、「位牌」を用いない。地域によっては「位牌」を用いる場合もあるが、慣習であり正式な作法ではない。

法名は、法名軸に記すか、略式である「過去帳」を併用することも容認されているが、正式には「過去帳」は引き出しにしまっておく。

浄土真宗では、阿弥陀如来の本願力により、その功德が我々に回向されているという教義であり、「自らの善根功德を亡き人へ回向する」(追善供養)という概念がない。また、亡き人は阿弥陀如来の本願力に遇う縁となった「諸仏」として敬う。そのため、元々は官位を表し、後に礼拝の対象とした「位牌」は用いない。同様に「法名軸」・「過去帳」など

ども礼拝の対象として用いない。『真宗小辞典』今回は辞書の力を借りました。



ども礼拝の対象として用いない。『真宗小辞典』今回は辞書の力を借りました。

子供にはお菓子に見える  
サボテンはか  
食べた娘は  
阿鼻叫喚 其佳耳

# こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

# 今道心



時がたつと言葉の意味が変わるものがあります。中には「おまえ」のように、反対の意味になる事もあるようです。私は、言葉の意味は変わることにはあまり抵抗はないのですが、元の意味を知るとは好きな方です。

「今」と言うと、この瞬間・現在という意味ですが、新しいという意味もあるようです。今を新しいと受け取ると、その言葉が生き生きしてくるような気がします。過去から現在、そして未来へ。すべてが今の連続ですが、新しいことの連続とも言えます。

今というこの瞬間は常に新しく、今日という日は毎日新しい日である。この度ご紹介の「今道心」は、新しく仏教の道を歩む者の事です。仏の道を歩むのに遅いも早いもありません。若かろうが、老いていようが、今日という日は新しい一日なのですから。

